

静岡県養護教諭研究会

1 発足と経過

本会は昭和32年、静岡県学校保健会職域部会「静岡県小中学校養護教員部会」として発足した。その後、時代のニーズに応え、平成6年に「組織検討委員会」を発会し、「望ましい養護教諭の職務を研究する組織の確立と、会員一人一人の声を反映させるための組織の在り方について」検討した。そして、県下の養護教諭の意思統一をするとともに関連機関（県教育委員会・県校長会・県教育研究会・県学校保健会）のご理解を得、平成9年学校保健会職域部会から独立した研究会組織「静岡県養護教諭研究会」に生まれ変わり、新たな門出をした。新しい研究会は、「学校保健の向上と養護教諭の資質の向上をめざす研究会」である。

「静岡県養護教諭研究会」は年々活動を充実させ、養護教諭の研究会組織として、また会員とともに歩む会として発展し、現在に至っている。

2 10年間の歩み（平成13年～平成22年）

平成13年養護教諭職制60周年を機に、「静岡県養護教諭研究会」は養護教諭の原点を見つめ、さらに専門性を高めていくための研究会組織として、年度毎にテーマを設定し活動を展開している。

本研究会活動は、資質向上のために、県全体を対象にした夏季研修会と参加希望制の冬季研修会を行っている。夏季研修会は、県教育委員会との共催という形で開催していたが、県の機構改革に伴い、研修機能が県教育総合センターに移行したことも相俟って、その在り方について協議した。その結果、平成22年度からは、午前中と午後の伝達講習までが教育センター主催の講習会、それ以降が研究会主催の研修会という形に変更した。もう一つの活動としては、専門委員会活動があり、会誌「たちばな」編集委員会（研究会誌の編集・発行）、実践事例集編集委員会（実践事例集の編集・発行）、調査研究委員会（悉皆調査の集計・分析）、ホームページ編集委員会（HPの作成・掲載）の4つの委員会で展開してきている。平成22年度は新たに「災害時緊急支援委員会」を設置し、来るべき災害に備え、また災害発生時に養護教諭として何をなすべきか等をハンドブックにまとめるという作業に着手している。これら委員会活動は、20年継続された活動であり、本研究会の伝統的な活動となっており、全国への発信も行っている。中でも実践事例集10の総合編は『養護教諭の活動の実践』として東山書房から装いも新たに出版され、養護教諭養成大学における教科書として、また現職研修の指導書・手引き書としても県内外で広く活用されている。事例集は前後して薬物乱用防止教育、心の教育、性教育、特別支援教育などをテーマに編集・発刊し、全11冊既刊した。

また、本県は養成大学を有さない数少ない県であり、かねてから養成設置を切望してきた。平成19年には静岡大学に設置にかかわる要望書を提出しているほか、関係機関にも働きかけを継続して行っている。

3 現状と課題

会員の年齢構成は40～50代が6割強を占めており、将来を展望したとき若手の育成が急務であるとともに、養護教諭のライフステージを踏まえた現職研修の充実も不可欠である。そこで、現職研修の環境整備の一つとして主任制を導入することにより、全体の資質向上が期待できると思われることから、関係機関とも連携を図りながら早期実現に向けて取り組んでいきたい。

（文責 戸塚豊子）